

# 琉球大学整形外科専門研修プログラム

専門領域名：整形外科

専門研修プログラム名：琉球大学整形外科専門研修プログラム

専門研修基幹施設：琉球大学 整形外科

## 目次

1. 琉球大学整形外科専門研修プログラムについて
2. 琉球大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
3. 琉球大学整形外科専門研修プログラムの詳細
  - 3.1 基本方針
  - 3.2 研修プログラムの施設群について
  - 3.3 研修ローテーションについて
  - 3.4 サブスペシャリティー領域との連続性について
4. 専門研修プログラムの体制
5. 研修およびプログラムの評価計画
6. 専医の評価時期と方法
7. 専攻医の就業環境の整備機能
8. 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
9. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

## 1. 琉球大学整形外科専門研修プログラムについて

整形外科専門医は国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため琉球大学整形外科では「整形外科一般を基盤とし専門性を極める」を理念とし、整形外科専門研修プログラムでは、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、地域住民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することが目標のひとつとなります。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。同時に医師として以下のコアコンピテンシー習得も必要となります。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと（コミュニケーションスキル）。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること（システムに基づいた診療）。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること（患者ケア）。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること（診療に即した学習と医学的知識の向上）。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと（教育）。
- 8) 地域住民の健康維持向上への貢献（地域医療）。

2017年からスタートした新専門医制度に先立ち、琉球大学整形外科ではこれまで、独自の後期研修プログラムを構築・運用してきました。その経験と実績により洗練された研修内容を提供します。

## 2. 琉球大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

日本専門医機構の定める研修プログラム修了要件は

- ① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ② 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ③ 臨床医として十分な適性が備わっていること
- ④ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得していること。
- ⑤ 1回以上の学会発表か筆頭著者として1編以上の論文があること。  
となっています。

必要単位とは研修内容を修練するにあたって、1ヵ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヵ月間で修得する45単位のことです。

### 10の研修領域

a:脊椎・脊髄	6 単位
b:上肢・手	6 単位
c:下肢	6 単位
d:外傷	6 単位
e:リウマチ	3 単位
f:リハビリテーション	3 単位
g:スポーツ	3 単位
h:地域医療	3 単位
i:小児	2 単位
j:腫瘍	2 単位
k: <u>流動単位</u>	<u>5 単位</u>
計	45 単位

注：

- ① 流動単位は、a から j までの領域の中から必修単位とは別に自由に選択することが可能。
- ② 地域研修は、専攻医が大規模な病院以外で地域に密着した医療を経験することと、専攻医の都市部偏在を回避することが目的である。
- ③ 1 病院で研修可能な分野が複数ある場合は、研修期間及び研修実態に応じて按分する。例えば、脊椎・脊髄、外傷分野の研修病院に1年間勤務した場合は、脊椎・脊髄6単位、外傷6単位を認定、上肢・手、リウマチ分野の研修病院に1年間勤務した場合は、上肢・手8単位、リウマチ4単位を認定する。

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本研修プログラムでは、琉球大学整形外科が主催する講演会・セミナー（2016年度は21講演）に参加することにより、他大学整形外科教授、整形外科専門医、そして医療安全分野など、エキスパートからの講演を受けることができる。

### 3. 琉球大学整形外科専門研修プログラムの詳細

#### 3.1 研修プログラムの施設群について

##### ①基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、琉球大学附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の11月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

##### ②本プログラムでは琉球大学整形外科が専門研修基幹施設となります。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の20施設、各病院には2-4名の指導医が在籍（合計

77名)し、さまざまな疾患を経験できるよう各施設の特長を生かした研修を行っています。大学病院では手外科、関節外科、脊椎・脊髄外科、腫瘍の4グループを3ヵ月毎にローテートして研修し、他の研修関連施設では外傷性疾患(スポーツ障害を含む)や加齢による変性疾患を中心に研修を行っています。整形外科後期研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められておりますが、基幹施設および連携施設全体において2016年度新患数39,660名、年間手術件数およそ15,053件(他プログラムとの重複を除く)の豊富な症例数を有する本研修プログラムでは必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。

### 3.2 研修ローテーションについて

必須単位を満たし、なおかつ初期研修のかかげる generalism から professionalism へ、さらには Subspecialty への連続的な育成プログラムとなるように8つのコースを設定しているのが特徴となります。各専門研修コースは、各専攻医の希望を考慮し、個々のプログラムの内容や基幹施設・連携施設のいずれの施設から開始できるようなコースから大学院への進学を念頭に置いたコースを作成しています。

コースの決定方法

- 1) 整形外科専門研修プログラム管理委員会は、採用者が決定した時点で、研修施設・研修時期などのローテーションにおける選択肢を提示する。
- 2) 採用者は、選択肢の中から順位をつけて希望を提出する。
- 3) 整形外科専門研修プログラム管理委員会において毎年調整し、最終的なローテーションを決定する。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。流動単位の8単位については、必須単位取得後にさらなる経験が必要と考えられる分野や、将来希望するサブスペシャリティ分野を重点的に研修することが可能です。

### 3.3 サブスペシャリティー領域との連続性について

研修プログラム終了後の進路としては、大きく分けて大学院へ進学するコースと、直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコースがあります。サブスペシャリティ領域の研修に直接進む場合には、進みたい領域の専門診療班に所属し、琉球大学整形外科ならびに連携施設において専門領域の研修を行います。整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの琉球大学附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

大学院へ進学する場合、研修終了の翌年度より整形外科に関連する大学院講座に入学し、主に基礎研究を行います（骨・軟骨再生、脊髄・神経、関節炎や解剖、骨軟部腫瘍などの基礎研究）。大学院卒業後はサブスペシャリティ領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事しますが、国内外への留学で、さらに研究の幅を深める選択肢もあります。

いずれのコースにおいても研修終了翌年度から行うためには、専攻研修4年目の12月の時点で、後述する修了認定基準を満たす見込みが得られていることが必要です。

## 琉球大学整形外科における週間スケジュール (指導医による外来数)

	週間スケジュール				
	月	火	水	木	金
	術前検討会 グループ回診	総回診 抄読会	術前検討会 術後検討会 グループ回診	術前検討会 グループ回診	リサーチミーティング 術後検討会 グループ回診
手外科	3 診	手術	2 診	手術	2 診
関節外科	2 診		1 診		2 診
脊椎外科	2 診		2 診		2 診
スポーツ・膝	1 診		1 診		
小児整形			1 診		1 診
腫瘍			2 診		2 診
リウマチ			1 診		1 診
リハビリ	1 診	1 診	1 診	1 診	1 診

## 基幹施設及び連携施設の実績

No.	施設名称	新患者 (2014)		手術数(2014)									
		合計	他のプログラムとの重複を除外した合計	脊椎	上肢手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	合計	他のプログラムとの重複を除外した合計
0	琉球大学整形外科	1327	1127	74	117	88	92	20	28	38	58	515	475
1	中部徳洲会病院	12,041	12,041	70	123	86	570	0	0	0	24	873	873
2	南部徳洲会病院	3698	3698	71	123	86	570	0	0	0	24	874	874
3	球陽会 海邦病院	375	375	1	29	44	91	7	44	0	8	224	224
4	ハートライフ病院	1,924	1,924	6	74	48	364	0	62	0	16	570	570
5	大浜第一病院	20,397	20,397	193	114	119	265	0	14	0	29	734	734
6	沖縄リハビリテーションセンター病院	1623	1623	0	19	49	0	0	23	0	2	93	93
7	与那原中央病院	2500	2500	7	40	4	108	0	4	0	67	230	230
8	沖縄赤十字病院	956	956	0	102	60	239	3	5	9	10	428	428
9	沖縄医療生活協同組合、沖縄協同病院	2090	1045	67	47	72	216	6	10	0	26	444	222
10	那覇市立病院	5034	5034	140	392	72	505	5	17	0	22	1153	1153
11	北部地区医師会病院	1314	1314	11	122	274	11	35	0	0	1	454	454
12	中頭病院	1328	1328	108	165	48	712	2	0	89	18	1142	1142
13	豊見城中央病院	3609	700	198	249	726	626	28	2	66	11	1906	400
14	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	1599	1599	48	8	34	245	0	0	52	1	388	388
15	県立八重山病院	1537	1537	9	151	197	13	0	8	1	5	384	384
16	沖縄県立宮古病院	1,589	1,589	0	56	90	281	6	0	0	7	440	440
17	沖縄県立中部病院	1356	1356	36	36	32	409	2	6	2	3	526	526
18	聖隷浜松病院 整形外科	4810	500	465	865	362	169	23	277	211	85	2457	40
計		54607	60643	748	1467	1050	3743	78	207	136	305	13835	9650



## 基幹施設及び連携施設の実績

No.	施設名称	新患数 (2016)	手術数(2016)								
		合計	脊椎	上肢 手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	合計
0	琉球大学整形外科	1,778	84	81	80	105	14	5	64	95	528
1	中部徳洲会病院	4,243	76	207	137	571	0	0	0	18	1,009
2	南部徳洲会病院	548	61	148	53	658	0	58	0	21	999
3	球陽会 海邦病院	1,230	1	37	48	83	10	60	0	11	250
4	ハートライフ病院	1,136	0	102	76	519	0	117	0	17	831
5	大浜第一病院	4,063	190	99	67	262	0	36	0	11	665
6	沖縄リハビリテーションセンター病院	668	0	13	37	1	0	21	0	0	72
7	与那原中央病院	0	0	148	8	30	0	4	0	95	285
8	沖縄赤十字病院	1,032	0	101	140	241	0	0	47	10	539
9	沖縄医療生活協同組合・沖縄協同病院	1,746	135	135	93	197	2	8	12	4	586
10	那覇市立病院	4,807	146	320	108	508	3	6	83	29	1,203
11	北部地区医師会病院	1,574	17	84	201	12	17	0	0	0	331
12	中頭病院	2,356	102	190	59	598	3	0	104	19	1,075
13	豊見城中央病院	2,720	253	313	728	536	33	77	55	23	2,018
14	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	1,462	48	5	60	193	0	0	43	1	350
15	県立八重山病院	1,759	2	62	90	230	1	17	0	3	405
16	沖縄県立宮古病院	1,635	0	62	63	255	0	3	2	12	397
17	沖縄県立中部病院	433	34	53	65	522	2	2	17	0	695
18	聖隷浜松病院整形外科	4,810	465	855	322	357	53	277	61	85	2,475
19	同仁病院	476	18	42	109	42	0	17	6	4	238
20	おもろまちメディカルセンター	1,184	0	5	18	42	2	2	0	33	102
計		39,660	1,632	3,062	2,600	5,962	140	710	494	491	15,053

## 研修ローテーション

専攻医年次	1年次				2年次				3年次				4年次			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
手外科コース	手外科病院				地域		当院		一般整形				手外科病院			
脊椎コース	当院				脊椎病院				地域		一般整形				脊椎病院	
関節外科(人工関節)コース	当院				豊見城中央病院				一般整形				当院		地域	
腫瘍コース	当院				当院(腫瘍グループ)		地域		一般整形				当院(腫瘍グループ)			
スポーツ整形コース	当院				一般整形				地域		聖隷浜松病院				当院	
一般整形・外傷コース	外傷病院				当院				一般整形				地域		外傷病院	
小児整形コース	当院				小児整形病院				一般整形				地域		当院	
大学研究コース	当院				一般整形				当院		地域		当院			

\* ①ローテーション順・期間は、基本的なもので変更可能である。

②手外科コース>100件/年、脊椎コース>100件/年

関節外科コース>下肢50件/年、外傷コース>300件/年(2014年、2016年実績)

④ 手外科病院：琉球大学、大浜第一病院、那覇市立病院、中部徳洲会病院

南部徳洲会病院、中頭病院

脊椎病院：琉球大学、豊見城中央病院、大浜第一病院、中頭病院、那覇市立病院

関節外科病院：琉球大学、豊見城中央病院、大浜第一病院、沖縄共協同病医院

那覇市立、北部地区医師会病院

小児整形：琉球大学、沖縄赤十字病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

外傷病院：県立中部病院、中部徳洲会病院、南部徳洲会病院、那覇市立病院

中頭病院、ハートライフ病院

地域医療：県立八重山病院、県立宮古病院、北部地区医師会病院

## 4. 研修方法について

### 4.1 専門知識・技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識・技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

専攻医は1年目4月上旬の専門研修プログラム管理委員会主催の勉強会に参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

### 4.2 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を琉球大学附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

### 4.3 プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催、もしくは日本整形外科学会主催の学会等への参加を促します。

### 4.4 リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いた臨床研究を学会等で最低年1回発表してもらいます。研究指導は各施設の指導医が行います。

### 4.5 学術活動に関する具体的目標とその指導体制

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

### 4.6 コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能

だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

琉球大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

#### 4.7 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は県内離島地域の中核病院を含みます。すべての専攻医は離島地域の中核病院に3ヵ月以上勤務します。これら中核病院にも指導医が常在しており、地域医療のみならず一般整形の研修も同時に行えます。また地域内活動として毎年10月の骨と関節の日に基幹施設により開催している一般市民セミナーで骨密度検診に参加します。

### 5. 専門研修プログラムの体制

基幹施設である琉球大学附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

### 6. 研修およびプログラムの評価計画

#### 6.1 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、専門研

修プログラム管理委員会に提出します。

他職種（看護師、作業療法士など）も含めた琉球大学および各連携施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

## 6.2 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長1名、副専門研修プログラム統括責任者を2名とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

琉大整形ネットワークを専門研修管理事務局に置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。年4回の定期委員会（4,7,11,2月）を開催します。11月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します

## 6.3 プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

## 6.4 専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

## 7. 専攻医の就業環境の整備機能

琉球大学附属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。

・施設の給与体系を明示します。

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

#### 8. 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヵ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

#### 9. 応募方法、病院見学の申し込みについて

##### 【病院見学】

琉球大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ (<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp>) に従って、琉球大学医学部総務課 教育研修係にご連絡ください。

##### 【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接、もしくは試験にて行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/orthop/> 琉球大学大学院医学研究科医学専攻整形外科学講座

必要書類：①申請書（ダウンロード）、②履歴書、③医師免許証（コピー）、④医師臨床研修修了登録証（コピー）あるいは臨床研修修了見込み証明書、⑤健康診断書

【募集期間】 平成29年 10月 10日～平成29年 12月 10日

##### 【問い合わせ先】

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207

琉球大学整形外科

担当：金城政樹、玉那覇千代子